

地域イベントにおけるデジタルアートを活用した地域の魅力発信 ―野々市じょんからまつりでの「じょんからプロジェクションメッセージ」の実施―

指導教員 金沢工業大学 情報フロンティア学部 教授 松林賢司
参加学生 中山僚太・稲垣寛人・蔵西伸哉・横川奨・川原紗香・古賀鈴菜・小堀仁稜
小山夏緒・宮田果林・一川みなみ・領家直央・原井大輝・山岸功治

1. 活動の成果要約

本活動はデジタルアートを活用した地域の魅力発信を目的として、野々市市で開催されている野々市じょんからまつりでイベントの思い出をデジタルテクノロジーを活用して発信する「思い出フォトギャラリー」を実施した。今回の企画の参加者は2日間で約150名となった。野々市市内外から幅広い世代の方々に参加してもらい、さらに、イベントの様子をSNSに投稿してもらったことで野々市市の魅力発信に大きく貢献できた。

2. 活動の目的

課題である地域イベントにおけるデジタルアートを活用した地域の魅力発信を解決するために、以下の目的を立てて活動を行った。

- ①野々市市の地域イベントへの市内外からの来場者数増加
- ②野々市市の地域イベントの魅力アップ、ブランド化
- ③野々市市の地域イベントを通じた地域住民との交流活性化
- ④担い手不足である野々市市の地域イベント運営への参加・貢献
- ⑤野々市市役所の大学専門知識“マーケティングテクノロジー”の習得・活用

3. 活動の内容

野々市市を代表する夏の一大イベントである「野々市じょんからまつり」に対象を絞り、金沢工業大学・DK art caféプロジェクトのデジタルアート技術を活用した企画により、イベントへの来場者数の増加を図り、じょんからまつりの名物・ブランドとして本企画の今後の定着を目指した。

野々市市と協議の上、じょんからまつりの来場者にメッセージボードを持ってもらった写真と花火の映像を野々市小学校校舎の壁面全体をスクリーンとしてプロジェクションする「思い出フォトギャラリー」を実施した。

詳細な活動内容は下記の通りである。

①企画立案のためのブレスト等（5月）

じょんからまつりの来場者数を増加させ、地域の魅力を発信できるような企画を考案した。さらに、その企画を今後行うために、じょんからまつりの名物・ブランドとするにはどうしたら良いかプロジェクトメンバーと話し合った。

そのブレストの結果、じょんからまつりの印象を来場者に強くもってもらうために、メッセージボードを持ってもらった来場者の写真を撮り、その写真をスライドショー形式でプロジェクションする来場者参加型の企画「思い出フォトギャラリー」を立案した。また、子どもたちの注目を集めるために、花火の映像をデジタルアートとしてプロジェクションする案も出た。

この2つのデジタルコンテンツは、野々市小学校校舎の壁面をスクリーンとして同時にプロジェク

ションすることになった（写真1）。

スライドショー



デジタルアート
(花火)

写真1 野々市小学校校舎壁面

②企画ニーズ調査アンケートの実施（6月初旬）

本プロジェクトで立案した企画を野々市市に提案し、企画ニーズの調査を行った。

③デジタルコンテンツの制作、リハーサル、PR（6月中旬～8月）

写真をプロジェクションしたときに、顔がはっきりと映るようにしたり、花火の映像を迫力のあるものにするため、デジタルコンテンツはリハーサルも行いながら制作した（写真2）。

また、さらなる来場者数の増加を目指すために、ポスターを制作して SNS 等でイベントの PR を行った（写真3）。



写真2 リハーサルの様子



写真3 ポスター

④じよんからまつり当日（8月3、4日）

じよんからまつり当日は、来場者を書いてもらったメッセージと一緒に写真を撮り、その写真を順次プロジェクションしていく作業を行った（写真4、5）。スライドショー、花火のデジタルアート共にうまくプロジェクションすることができた（写真6）。



写真4 参加者の様子



写真5 写真を追加している様子



写真6 実際のプロジェクション風景

4. 活動の成果

「思い出フォトギャラリー」は2日間で約150名の参加があった。今回の企画は野々市市内外の子どもからご年配の方、友だち同士や家族連れなどと幅広い方々に参加してもらえた。

じょんからまつり全体でも来場者数が増加し、本活動の目的である野々市市の地域イベントへの来場者数の増加を達成することができた。さらに、来場者参加型の企画にしたことによって、自分の姿が大画面のスクリーンに映っているのを背景に、参加者自らがその様子を写真に撮り、SNSで発信してくれたこともあり、より多くの人に野々市市の地域イベントの魅力に加え、野々市市の活気を伝えることができた（写真7）。

また、前年度に当プロジェクトが地域課題研究ゼミナール支援事業で実施した同様のイベントを知っており、今回も参加してくれた人がいたので、本企画がじょんからまつりの名物企画として定着し、周知されていることを強く感じられた。

「野々市じょんからまつり」という伝統的なイベントにデジタルアートという近代的な技術を用いた企画を提供したことにより、野々市市の地域イベントのマンネリ化を防止し、イベントの魅力アップ、さらにはブランド化に貢献することができた。



写真7 自分の姿がプロジェクションされているのを背景に写真を撮る参加者

5. 次年度の計画

当プロジェクトの地域課題研究ゼミナール支援事業での活動は今回で継続3回目の実施となり、これで一旦終了するが、じょんから祭りの名物イベントとして定着しつつあり、地元のスポンサー企業の探索も進んでいることから、これまでの活動の成果を基に今後も様々な形で野々市市と協働し、野々市市の地域課題を解決してより野々市市の魅力を発信できるように目指す。

6. 活動に対する地域からの評価

これまでの地域課題研究ゼミナール支援事業で金沢工業大学・DK art caféプロジェクトが行ってきた活動によって、じょんからまつりへの来場者数が増加し、野々市市内外の多くの方々に野々市市の魅力を発信できた。

参加者にアンケートを取った結果、今回のような自ら体験できる参加型の企画にまた参加したいという声がたくさん出た。さらに、前年度に実施した同様のイベントを知っている人もおり、イベントがしっかりと周知されていることが感じられた。

また、担い手不足である野々市市の地域イベントの運営に学生が参加したことによって、これからの担い手となる若手の育成に貢献できたことや、デジタルテクノロジーを活用したイベントの実施のノウハウを得られたことに対して、高い評価を得た。